

テーマ：ふわふわもこもこ

西中延保育園（品川区）

テーマ設定の理由

泡を使用した遊びや制作活動から、ふわふわもこもこしたものを中心とした、様々な素材の感触について関心を示したためこのテーマを設定した。

対象年齢・人数

4歳児 16名

◆事例1 活動名：夏の泡遊び

活動のねらい

- ・水や泡の心地よさを十分に味わう。
- ・泡の変化に気づき表現したり、見立てて遊んだりすることを楽しむ。

用意した環境

- ・バケツ、石鹼（固形、削ったもの）、たらい、水を用意する。
- ・食紅（赤、青、黄色）を溶かした水、ビニール袋、プラコップ、スコップなどをすぐに出せるようにしておく。

活動内容

- ・石鹼を泡立てて感触を楽しんだり、見立てて遊んだりする。

子どもたちの様子

感触の心地よさを味わう子もいれば、泡の重さが軽いことに気づく子もいた。泡立てのコツをつかみ、友達同士で競う姿もあった。

保育者の振り返りと気づき

夏季に繰り返し異なるメンバーで活動を行うことで、その都度違った子ども達の発見があった。



◆事例 2

活動名：トイレットペーパーで遊ぼう

活動のねらい

- ・トイレットペーパーの感触の変化を楽しむ。
- ・新しい発見や思ったことを友達と伝え合い、イメージを膨らませていく。

用意した環境

- ・トイレットペーパーを壁際に吊るす。
- ・カラーペン、絵の具、ビニール袋、新聞紙、洗濯のり、バケツ、ボウル、プラコップなどすぐ出せるようにしておく。

活動内容

トイレットペーパーをちぎったり、巻いたり、ロールを引き出して遊ぶ。子どもの様子に合わせて、袋詰めする、水に浸す、色付けをするなどをして感触の変化を楽しむ。



子どもたちの様子

トイレットペーパーを巻き取る、被る、肩掛けタオルや、ケーキに見立てて楽しんだ。設置したボウルに、水を入れておくとトイレットペーパーを浸しては「ぐにゅぐにゅになった」と変化を楽しんでいた。洗濯のりでパルプ粘土にし、成型する。乾燥後の状態の変化を見て「こっちはかちこち、こっちはぶによぶによ」と個体差に気づいていた。

保育者の振り返りと気づき

トイレットペーパー単体でも見立て遊びが広がっていく様子が印象的だった。絵の具も用意したことで、混色にも興味を示していた。予想と結果が違うという経験も子ども達にとってはとても楽しいものようだった。



◆事例3 活動名：ふれあい動物園

活動のねらい

- ・動物と触れ合い、感触や生き物の温かさを感じる。
- ・予想との違いに触れて感じて、動物への関心を深める。

用意した環境

- ・ふわふわもこもこした動物の予想表を4歳児室に掲示、随時追加していく。
- ・動物の図鑑やフィギュアを用意する。
- ・ふれあい動物園を園に招く。
- ・翌日、画用紙、羊毛や紙粘土、絵の具、ふれあい動物の写真を用意する。

活動内容

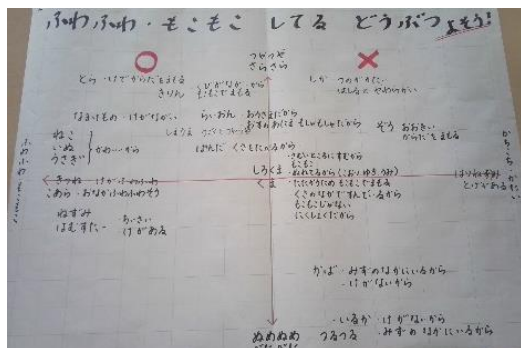
事前にふわふわもこもこした動物を予想したり様々な動物の触り心地やその理由を想像したりする機会を持つ。ふれあい動物園を園に招き、動物に乗ったり餌やりをしたり、実際に触れあって楽しむ。後日、触れ合った動物を羊毛や紙粘土を使った立体絵で表現する。

子どもたちの様子

朝から目を輝かせて、動物が園庭に入ってくるところから帰っていくところまでを見守っていた。「かわいいね」「あったかいね」「すぐにげちゃう」「ふわふわだ」など感じたことを口々に言葉にしていた。予想していた触り心地と違う動物に驚く姿もあった。

保育者の振り返りと気づき

実際に触れあうことで、新しい疑問も生まれ、飼育員の方に質問をする姿もあり、体験することの学びの多さを感じた。それぞれの動物の感触の理由まで関心を広げていく姿が印象的だった。



◆事例 4 活動名：シャボン玉ショー

活動のねらい

- ・様々なふわふわもこもこに触れて楽しむ。
- ・シャボン玉ショーに参加し、感じたことを言葉や様々な方法で表現する。

用意した環境

- ・シャボン玉ショーを園に招く。
- ・後日モールや半分に切ったペットボトル、トレー、ボウル、シャボン玉液を用意する。

活動内容

シャボン玉を飛ばして遊ぶ。シャボン玉ショーに参加し、シャボン玉を観たり、シャボン玉の中に入ったりする体験をする。後日、シャボン玉を飛ばすための道具を手作りして遊ぶ。

子どもたちの様子

数々のシャボン玉にじっと見入る様子だった。たくさんのシャボン玉を割って楽しむ場面では、我先にとシャボン玉に手を伸ばしていた。シャボン玉に入った際「われたら雨がふったみたいだった！」と興奮した様子で感想を伝えていた。

保育者の振り返りと気づき

シャボン玉を飛ばす道具についてやシャボン玉の液には何が入っているのか気にかける子がおり、次の活動につなげていった。一連の活動を通して子ども達は“ふわふわ”と“もこもこ”という言葉を使い分けるようになり、より具体的に自分の抱いたイメージを伝えられるようになった。

